

岡崎むかし館通信

<http://www.city.okazaki.lg.jp/libra/803/p014017.html>

郷土学習のヒントとなる情報を発信します。



2015年は、5連休が5月のゴールデンウィークと、9月の通称:シルバーウィークの2回もありますね。りぶらは、水曜日が休館ですが、祝日と重なった時は開館していますよ！

地域の再発見

野本先生のフィールドノートメモ

地域を歩く—西尾市一色町諏訪神社を訪ねて—

今回は、少し岡崎から離れた西尾市一色町に鎮座している諏訪神社を訪ねました。ここで、諏訪組の大提灯柱納入(お木曳^{きびき})-平成27年3月8日-について、見学する機会を得たので報告します。

諏訪神社は、永禄年間(1558~1570)に信濃の諏訪大明神の分霊を勧請して創立されたと伝わる神社で、毎年8月26日・27日に行われる「大提灯祭り」は有名です。

全長6~10mの巨大な提灯6組12張は、かつて「海の魔物」を鎮めるために焚かれた篝火が起源ではないかと伝承されています。大迫力で一色の夏の夜を彩ります。大提灯は、6組(上組、中組、大宝組、宮前組、諏訪組、間組)で長い間守り伝えられ、昭和44年10月に愛知県有形民俗文化財に指定されています。



お木曳



神木お祓

一色の大提灯は、氏子でつくる6組の集団が一对二張りずつの大提灯を持ち、当日は計12張が吊り上げられます。大提灯は、各組とも3本(寛文年間に2本から3本に変化)の大柱で支えています。しかし、100年以上前に作られたと伝えられる大柱の老朽化が目立ち始めたことから、3本の内1本を取り換える作業が、平成19年度から始まり、今回の諏訪組で全組1本の柱が新調されることになります。

今回の大柱は、昨年11月に保存会会長の杉浦平六さんはじめ諏訪組関係者が東栄町の山林で選定したものです。三河杉で、真直ぐで太さのバランスが取れているもの、という厳しい条件が付けられています。その条件を満たすものを切り出して、一定期間寝かし、3月8日に納入を迎えました。

この日届いた大柱は、樹齢100年の三河杉で長さ13m、元口(根元)直径50cm、末口

直径32cm、重さ2tの大木です。これからずっと活躍する場となる諏訪神社の前で御祓いを受けた後、鳥居を慎重にくぐりました。この後、諏訪組の氏子約40人が原木の表面の皮剥ぎを行い、より大柱に近い形にしました。

この貴重な場面を観察できたことはとても幸運でした。長い年月守り伝えて行こうとする人々の熱き心に触れ、伝統の重さを改めて考えさせられました。是非、8月26日・27日の一色大提灯祭りを体験してみてください。【N】



西尾市一色町 大提灯祭り

むかし館利用の事例

フィールドワークと組合せて学ぶ ―愛宕小4年生(2015年3月2日来館)―

むかし館では、展示空間で講座ができるように、プロジェクターにパソコンをつないで映すことができます。愛宕小学校の4年生が「郷土を開く」の学習のため、伊賀川フィールドワークとあわせてむかし館を見学した時に、常設展示では紹介しきれない資料を、パワーポイントのスライドで解説しました。また、手作業による土木工事で使用された道具「ジョレン」も、実際に手に取ってもらいました。こうしたことは、事前にご相談いただければ、むかし館からも提案することができるので、一味違う見学体験になると思います。



一色大提灯祭りの提灯は本当に見事です。大きな蠟燭に火をつけて、夕闇に提灯の灯りが浮かびあがると、電気のあかりとは異なる幻想的な雰囲気を感じられます。矢作川を通じて、各地に共通する文化が見られます。市外に目を向けてみることも、大切なことだと思います。

●編集/発行(隔月) 岡崎市立中央図書館・企画班 平成27年5月
〒444-0059 岡崎市康生通西4-71 tel.23-3167 / fax.23-3165

開催中 【企画展「木の民具～桶・樽～」 ～ 7/7】

開催中 【りぶらギャラリー展示「能見神明宮大祭」 ～ 5/11 ※最終日15:00まで】

◎今年の能見神明宮大祭は、前日祭:5月9日(土)・大祭:10日(日)です。